

少人数のゼミ形式による音楽教育

教授 浅井 洋子
准教授 森 直紀

本研究は、平成 22 年度より短期大学部の教員による共同研究テーマである「短期大学における実技教育の目的と手法についての研究」に則り、音楽大学における「少人数のゼミ形式による多面的・横断的なカリキュラムとその運用法」について考察したものである。その趣旨は本学短期大学部の「ピアノコース」の学生を対象に、各学生の能力を最大限に引き出し得る有機的かつ効率的な教育システムを構築することであった。

その内容は、1) ピアノを演奏するために必要な知識を得るための講義、2) 「グループレッスン」を通して各自が授業内で行う研究成果発表、3) これまで開催されてきた短大の特色ある「秋のコンサート」での演奏、及び運営への組織的取り組み等である。その内容を踏まえて、平成 23 年度より「少人数によるゼミ形式」形態による科目「ピアノ演奏研究①」を新設し、平成 24 年度にはその積み上げ科目として「ピアノ演奏研究②」を運用した。今回の研究においては 2 年間にわたるこの科目の実施結果について検証し、その成果を報告する。

I. 「ピアノ演奏研究」の教育目標

(1) 専門教育

音楽大学でピアノを学んだ者にふさわしい「学士力」—基礎的知識と技術—を獲得させること、さらには将来ピアノの演奏家や指導者を志す者にとっても有用な情報を提供することを旨とする。

1) 演奏力

- ① 演奏技術上の基礎知識と実践
- ② 音楽様式および演奏スタイルの差異に対する理解
- ③ 音楽的表現に関わる奏法上の理解
- ④ アンサンブル能力の向上
- ⑤ 授業および演奏会における演奏の実践

2) 観賞力

- ① ピアノ音楽史の理解
- ② ピアノ演奏スタイルの変遷
- ③ 他者の演奏に対する評価

(2) キャリア教育

専攻実技にかかわらず、大学卒業生として社会で求められる「学士力」の獲得と強化

を目指す。

- 1) 文章力
 - ① 自己分析・自己表現（レポート執筆）
 - ② 評論・感想
- 2) プレゼンテーション力
 - ① 口頭発表（レポート発表）
 - ② 意見発表
- 3) コミュニケーション力
 - ① 討論・意見交換
 - ② アンサンブルによる他者との交流
- 4) マネージメント力
 - ① 『秋のコンサート』の学生による企画・運営
 - ② 小グループによる研究と発表

上記の授業目標を達成するために作成した「シラバス」に基づき、平成 23 年に「ピアノ演奏研究①」を、平成 24 年には「ピアノ演奏研究①・②」を開講した。次章では平成 24 年度に実施した両科目の授業内容について報告する。

II. 実施内容

(1) 「ピアノ演奏研究①」

前期	
1 回目	授業内容のオリエンテーション
2～3 回目	プレゼンテーションの手法について シューマン著「音楽と音楽家」を用いて実践する。
4～5 回目	『音楽を語る』① 「自分が音楽を志した理由」レポートを執筆しプレゼンテーションを行う。
6～9 回目	古典派ピアノ作品研究 作曲家の生涯・作品研究と演奏の発表を行う。 作曲家: ハイドン・モーツァルト・ベートーヴェン
10 回目	ピアノアンサンブル（連弾）の作品鑑賞
11～14 回目	古典派ピアノ連弾作品の演奏分析研究 曲目: ベートーヴェン「4 手のためのピアノソナタ 作品 6」演奏発表
15 回目	1) ベートーヴェン「4 手のためのピアノソナタ 作品 6」試演会 2) 1、2 年生合同での「秋のコンサート」運営方法の検討 チラシ・ポスター・プログラム作成、当日の運営スタッフの打合せ
後期	
1～4 回目	「秋のコンサート」で演奏する連弾曲についての研究
5 回目	「秋のコンサート」 本番 10 月 3 日（土）13：00～ ユリホール プログラム 1. グリーク：《ペール・ギュント》より 朝、アニトラの踊り、山の魔王の 宮殿にて 2. ブラームス：《ハンガリー舞曲》より 第 4 番、第 5 番

	<p>3. フォーレ：《ドリー》より 子守唄、ミーアーウー、スペイン風の踊り</p> <p>4. ドビュッシー：《小組曲》より 小舟にて、メヌエット</p> <p>5. モシュコフスキー：ポロネーズ Op.55-3 ピアソラ：リベルタンゴ</p> <p>6. 尾高惇忠：《音の旅》より 前奏曲、なめとこ山の熊、注文の多い料理店、どんぐりと山猫、古い旋法によるフガート</p> <p>7. 松崎泰治：木の葉のワルツ ドヴォルザーク：《スラヴ舞曲 Op.72》より 第1番</p>
6回目	『音楽を語る』② 「秋のコンサートに出演して」レポート執筆と発表
7回目	『音楽を語る』③ 「興味のある事柄について」レポート執筆と発表
8～9回目	バロック作品研究発表 「J.S.バッハ インヴェンション」全15曲 作品研究と演奏発表を行う。
10～11回目	「J.S.バッハ シンフォニア」全15曲 演奏発表
12～13回目	「J.S.バッハ 生涯と作品」について研究発表を行う。
14～15回目	演奏表現の多様性—CDによる比較研究とまとめ 曲目：J.S.バッハ 平均律第I巻 第1番、インヴェンション
1月24日(木)	<p>期末試験（筆記）実施</p> <p>試験問題：</p> <ol style="list-style-type: none"> J.S.バッハの音楽をどのように感じるか自由に感想を述べよ。 後期実技試験で演奏する曲目について以下の設問に、わかる範囲で答えよ。 <ol style="list-style-type: none"> 作曲者名と生没年および国籍 曲名、作品番号、調性、作曲年 試験での演奏に際して、心がけたいと思っている事柄 1年間この授業を受講して、自分自身で向上したと思われる点を述べよ。

(2)「ピアノ演奏研究②」

前期	
1回目	演奏解釈の多様性—CDによる比較研究『コンクール形式による』 曲目：ショパン ワルツ 第4番 作品34-3
2～4回目	『音楽を語る』① 「作曲家について」— 任意の作曲家の伝記読後感想文の執筆と発表 作曲家：モーツァルト、シューベルト、メンデルスゾーン、ショパン、シューマン、リスト、ブラームス、ドヴォルザーク、フォーレ、ドビュッシー、ラヴェル、ラフマニノフ、フォスター、ジョプリン
5回目	2台ピアノ作品研究—CD・DVDと実演による鑑賞 曲目 ラフマニノフ：タランテラ、ラヴェル：ラ・ヴァルス 他 オーベール：小組曲 Op.6（実演：浅井教授、森准教授）
6回目	ドイツロマン派の音楽について（講義）
7～10回目	ロマン派のピアノ作品研究 曲目：ブルグミュラー 25の練習曲（2台ピアノ版）の演奏発表
11～14回目	2台ピアノ作品の演奏分析研究 曲目：オーベール 小組曲 Op.6 の演奏発表
15回目	<ol style="list-style-type: none"> 「オーベール：小組曲 Op.6 発表会」 1、2年生合同での「秋のコンサート」運営方法の検討 チラシ・ポスター・プログラム作成、当日運営スタッフの打ち合わせ
後期	
1～4回目	「秋のコンサート」で演奏する2台ピアノ作品についての研究
5回目	「秋のコンサート」

	<p>本番 10月3日(土) 13:00～ ユリホール プログラム</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オーバール：小組曲 2. チャイコフスキー：《くるみ割り人形》より行進曲、葦笛の踊り 3. チャイコフスキー：《くるみ割り人形》より花のワルツ 4. カプースチン：ディジーガレスピーの「マンテカ」によるパラフレーズ 5. シューマン：アンダンテと変奏曲 6. モーツァルト：《2台のピアノのためのソナタ》より第1楽章 7. プーランク：[仮面舞踏会]の終曲によるカプリッチョ 8. サン＝サーンス：死の舞踏 9. モーツァルト＝グリーク：ファンタジー ハ短調 10. サン＝サーンス：《動物の謝肉祭》よりかめ、水族館、大きな鳥かご、白鳥 11. サン＝サーンス：《動物の謝肉祭》より序奏とライオンの前奏曲、雄鶏と雌鳥、森の奥のかっこう、ピアニスト、終曲 12. アルチュニアン&ババジャニアン：アルメニア狂詩曲 13. ベートーヴェン：《交響曲 第7番》より終楽章（1年生と2年生による8手連弾）
6回目	<p>『音楽を語る』② 「秋のコンサートに出演して」レポート執筆と発表</p>
7～10回目	<p>近現代ピアノ作品研究発表 二人一組で指定作曲家についてレポート執筆と発表 作曲家：サン＝サーンス、チャイコフスキー、グリーク、アルベニス、サティ、グラナドス、スクリャービン、プロコフィエフ、プーランク、ショスタコーヴィチ、メシアン、カプースチン</p>
11～15回目	<p>『音楽を語る』③ 「私の好きなピアニスト」レポート執筆と発表 ピアニスト：ウラディーミル・ホロヴィッツ、クラウディオ・アラウ、アルトゥール・ルービンシュタイン、ニコライ・デミジェンコ、マウリツィオ・ポリーニ、ヴラド・ペルルミュテール、デュオ・グレイス（宮谷理恵&高橋多佳子）、モニック・アース、ディヌ・リッパティ、マリア・ジョアオ・ピレシュ、ウラディーミル・アシュケナージ、ハーモン・ルイス、井上直幸、舘野泉、内田光子、辻井伸行、フジコ・ヘミング、ミシェル・ベロフ、ミシェル・ペトルチアーニ</p>
1月24日(木)	<p>期末試験（筆記）実施 試験問題： 1. 卒業試験で演奏する曲目について以下の質問に、わかる範囲で答えよ。 ①作曲者氏名と生没年及び国籍 ②曲名、作品番号、調性、作曲年 ③試験での演奏に際して心がけたいと思っている事柄 2. 2年間この授業を受講して、どのような成果が得られたと感じるか。 3. 短大で学んだことを今後の活動にどのように生かしていきたいか。</p>

上記の授業により、この科目の教育目標である、①ピアノ演奏力 ②鑑賞力 ③文章力 ④プレゼンテーション力 ⑤コミュニケーション力 ⑥マネジメント力の育成の一助となることを意図した訳であるが、学生達は総じて非常に真剣かつ積極的に授業に取り組み、そのレポート内容やプレゼンテーション力の向上から判断するに、期待以上の成果が上げられたものと考察する。その実際的成果については、次章において最後の試験時に学生に対して行ったアンケート結果をもって検証したい。

Ⅲ. アンケート結果による検証

(1) ピアノ演奏研究①

アンケート結果 (12名)

1. 人前で演奏することには慣れてきた

そう思う (1) 少し思う (7) あまり思わない (4)

理由

- ・周りに人がいても気にしなくなった。
- ・入学当初に比べると慣れたと思う。
- ・人前で演奏を重ねる事によって緊張感が良い方向へととなっている。
- ・慣れてきて緊張する訳ではないけれど、テンポが走ったりしてしまう。
- ・他の人よりも人前で演奏する機会があまりなかったため、だんだんと慣れてきたが、まだガチガチになってしまう。
- ・時にリラックスして弾けないときがあるので。
- ・まだ舞台に出ると緊張して、曲に集中出来ない時がある。
- ・昔はまったく緊張しなかったのに、最近はとても緊張してしまう。
- ・上手く弾けないから。
- ・そんなに人前では弾いていない気がする。

2. 他者の演奏について感想や意見を持てるようになった

そう思う (6) 少し思う (4) あまり思わない (2)

理由

- ・いろいろな人の演奏を聴くことで、感想や意見を持てるようになった。
- ・他者の演奏を聴いて、良いところも自分に取り入れようと思うようになった。
- ・他者の演奏は毎日聴けるわけではなく、自分との違いなどを発見できる。
- ・いろいろな人の演奏で自分の好き嫌いも出てきたと思う。
- ・自分と違う演奏が聞けるし、考え方が違うから。
- ・先生の意見などを聞いて、比較の仕方が参考になった。
- ・人の演奏を聞く機会がなかったため、授業でいろいろな人の弾き方の違いなどがわかって考えるようになった。
- ・悪い部分だけでなく、良い所も見つけることが出来るようになった。
- ・同じ曲をやった時などは、自分と比べてどこが違うか分かるようになった。
- ・今までと変わらない。

3. 作曲家や作品についての知識が深まった

そう思う (2) 少し思う (10) あまり思わない (0)

理由

- ・はじめの頃に比べて少し深まったと思うから。
- ・以前よりも、作曲家について自分で調べるようになったから。

- ・自分の弾かない作曲家の事も知ることができたから。
- ・細かく勉強できたと思う。
- ・レポートなどで作品について調べるようになったから。
- ・以前は曲を弾くことしか気考えていなかったけれど、作曲家のことを知ることによって曲に気持ちを入れられるようになったから。
- ・作曲家のことについて何度も聞くことができ、覚えることができたため。
- ・知らないことが多かったので、知識は深まったと思う。
- ・今まで調べたことがなかったから。
- ・これまでは本やインターネットで調べただけだったから。

4. レポート執筆力が向上した

そう思う (0) 少し思う (6) あまり思わない (6)

理由

- ・これまで普段はレポートを書くことが少なかったから。
- ・最初の頃より話のまとめ方が分かってきた気がする。
- ・レポートを書くのが速くなったから。
- ・まとめたりするのが以前より苦でなくなったため。
- ・文章は苦手なので、向上していればいいと思うから。
- ・まとめる力がついたと思う。
- ・レポートは少なかったので、あまり向上しなかったと思う。
- ・ネットに頼ることが多かった。
- ・自分自身でレポートを作成したので、誰かに教えられたわけではないから。
- ・レポートは何回書いても上手く書けない。
- ・高校生の時のの方がレポートに関してもっと厳しかったので。

5. 人前で発表する能力が向上した

そう思う (3) 少し思う (7) あまり思わない (2)

理由

- ・以前はとても緊張したが、場慣れするようになった。
- ・それほど緊張せずに発表することができるようになった。
- ・レポートを書いて、それを発表する機会が増えたから。
- ・未だに舞台慣れは全くしていないが、良い経験になっていると思う。
- ・相手にわかりやすく説明しようと心がけた。
- ・発表の機会が多かったので、向上したと思う。
- ・原稿があってもそれを見ずに自分の言いたいことが言えるようになった。
- ・演奏の機会と同様、話す機会もなかったので人前で話す難しさなどを知った。
- ・今でも緊張するが、多分ちょっと慣れた。
- ・どう話していいかまだよくわからないから。
- ・連弾なのでわからない。

6. コンサートの企画や準備・運営等の面で自主的に行動できるようになった
そう思う (1) 少し思う (5) あまり思わない (6)

理由

- ・ 責任感をもって行動できるようになった。
- ・ 今、何をすべきか考えて動けるようになったと思う。
- ・ 先輩方が主にやってくれた。来年度は自分たちが前に立って秋のコンサートなどの運営をするので、今回よりもっと良い演奏会になるようがんばりたい。
- ・ 人手が足りないところで、自分から仕事を引き受けることが少してきた。
- ・ 秋のコンサートで運営について学んだ。
- ・ 2年生に頼りっぱなしだったので、来年は自分たちが1年生と一緒に準備できればいいと思った。
- ・ ほとんど2年生がやってくれた感じだったが、自分のやるべき事はできたと思う。
- ・ 前は何も出来なかったので、今回は進んで取り組みたい。
- ・ 秋のコンサートは、正直なところ全て人任せにしてしまったと思う。
- ・ 分担も決まっていたので、自主的な場はあまりなかった。
- ・ 何をしていたかわからなかった。

自由記述

- ・ 作曲家の発表の時、同じことを何度も繰り返して発表するよりは、少し分担した方が
良い。
- ・ 作曲家について詳しく調べることが、他の授業に生かされた。
- ・ 秋のコンサートの段取りが悪かったので、もう少し話し合うべきだと思った。
- ・ 秋のコンサートだけでなく、他にもアンサンブルをやる機会が欲しい。
- ・ 秋のコンサートでは、たくさんの改善点があると思った。
- ・ 秋のコンサートの準備をもう少し早い時期から取り組みたい。
- ・ 秋のコンサートの時期にもっと1、2年生で打ち合わせできれば良かったと思う。
- ・ 秋のコンサートの準備は余裕を持ってやりたい（今年度はギリギリだった気がした）。
- ・ 曲の順序やビデオ撮影が禁止されたことに不満が残った。

所見

1. 「人前で演奏することには慣れてきた」では、まだまだ緊張はするが、少しずつ慣れてきているようだ。
2. 「他者の演奏について感想や意見を持てるようになった」では、ほとんどの学生が他者の演奏についての感想や意見を持てるようになったと思っている。
3. 「作曲家や作品についての知識が深まった」では、自分でも調べるようになり、積極的に知ろうとする気持ちが出てきている。
4. 「レポート執筆力が向上した」では、半数の学生が向上していないと答えている。
レポートについての細かな指導が不足したことは反省点である。一方でレポートを書くことに自信が持てない学生もいるようだ。
5. 「人前で発表する能力が向上した」では、何度も発表することを経験して、ほとんど

の学生が慣れてきたと感じている。

6. 「コンサートの企画や準備・運営等の面で自主的に行動できるようになった」では、今回の秋のコンサートでは2年生に頼ってしまって、自主的に行動したとは思っていないようだ。

「自由記述」では秋のコンサートに対する意見が多く、自分達が来年度はしっかりやりたいという強い気持ちが現れている。

(2) ピアノ演奏研究②

アンケート結果(22名)

1. 人前で演奏することに慣れてきた

そう思う (7) 少し思う (10) あまり思わない (5)

理由

- ・多少恐怖心はなくなったように思う。
- ・場慣れはしたと思うが、演奏前の精神状態はいつも同じだから。
- ・秋のコンサートを2回出来て少しは慣れたと思う。
- ・授業を通して人前で弾く機会が増えたため。
- ・何回人前で演奏しても慣れない。
- ・授業内や秋のコンサート等、人前で演奏する機会が増えたため
- ・人前で演奏したり、人の演奏を聴いたりしたので。
- ・何回人前で演奏しても緊張して、慣れることができなかった。
- ・1年生の初めの頃に比べると、授業内で弾く機会が多かったので慣れてきた。
- ・秋のコンサートなどもあって人前で演奏する機会が増えたから。

2. 他者の演奏について感想や意見を持てるようになった

そう思う (15) 少し思う (7) あまり思わない (0)

理由

- ・感想を述べる機会もたくさんあり、意見を持てるようになった。
- ・自分と同じ学習をしている人の演奏を聴くことにより学ぶことが多かった。
- ・素直な意見を言えるようになった。
- ・それぞれ本当に演奏が違うと思った。
- ・お互いの個性や良いところを発見できたから。
- ・そのような機会があり、積み重ねてきたので。
- ・プレゼンテーションで他の人の発表や意見を聞くことで意見を考えるようになった

3. 作曲家や作品についての知識が深まった

そう思う (19) 少し思う (3) あまり思わない (0)

理由

- ・多くの作曲家の作品に触れる機会があったので知識も深まった
- ・授業を受けているだけで自然に身に付いていると思う

- ・毎回授業で他の人や自分のプレゼンによって、今まで知ることのなかったものを知ることができた。
- ・他の人のスピーチや発表によってさまざまな知識が深まった。
- ・多くのことを学んだが、身に付いていないのもう一度復習してみたい。
- ・授業をきっかけに、知らなかったことを知ることができて知識が深まった。
- ・一人ではなく皆で協力したことが良かった。
- ・自分で調べたり、他の人の発表を聞いたりして知識が深まった。
- ・作曲家について何度もプレゼンテーションがあったので、自分が調べた作曲家以外に他の人の発表も聴く事によって、より深まった。
- ・レポートで作曲家や作品について調べる機会が多くあったので、以前より知識がついたと思う。

4. レポート執筆力が向上した

そう思う (10) 少し思う (10) あまり思わない (2)

理由

- ・レポートを書く機会が多かったので少しだけ向上したように思う。
- ・自分で作成かつ発表を行うので責任があった。
- ・執筆の機会が複数回あったから。
- ・何回もレポートを書くことを経験して、慣れてきた。
- ・以前に比べると人前で発表する場が多かったため、向上したと思う。

5. 人前で発表する能力が向上した

そう思う (11) 少し思う (11) あまり思わない (0)

理由

- ・声が大きくなったと思う。
- ・ひとつひとつの段階を踏むことにより、着実に能力が上がっていった。
- ・1年生の時より向上していると思う。
- ・まだ喋りがぎこちない。
- ・初めの頃に比べ堂々と人前で話せるようになってきたから。
- ・自分で勉強をするので向上した。
- ・人前で話すことが当初苦手だったが、回数を重ねていく毎にハキハキと発表出来るようになったから。
- ・2年間やってきたので、2年生の後半はあまり緊張せずプレゼンテーションが出来るようになった。
- ・皆の発表を聞いて、良いところは真似し、悪い点には注意して、自分の発表につなげられた。

6. コンサートの企画や準備・運営等の面で自主的に行動できるようになった

そう思う (11) 少し思う (10) あまり思わない (1)

理由

- ・人任せにしなくなったと思う。
- ・経験できないようなことを経験できて、音楽を活動での大切なことを学び、協力しながらできた。
- ・自分でも動くようになったが、さらに動く人に頼ってしまうことがある。
- ・短大にいたからこそ、できるようになった。
- ・秋のコンサートを通して今まで見ることのなかった仕事や役割を実際に経験して、自ら動き皆で協力する力もついた。
- ・皆で協力して一つのことをするのが楽しかった。

自由記述

- ・2年間ありがとうございました。
- ・とても楽しかった。
- ・自分の音楽活動につながることを多く学び得た授業だった。
- ・ピアノを中心に、他の分野の音楽も勉強できたので、音楽人としての質が磨かれた。
- ・ピアノを弾く上で、大切なことを学べた授業でした。
- ・毎週のようにレポート提出で大変だったが、人前で何か発表することに慣れて良かった。
- ・この2年間ピアノを中心にとっても楽しい授業だった。秋のコンサートという大きな行こともあってクラスのメンバーとの仲も深まった。
- ・本当に楽しくてためになる授業をありがとうございました。
- ・授業を通して自分の中の音楽に対する意識が強くなったと思う。
- ・もっと授業の中でピアノが弾きたかった。
- ・本当に自分にとって役立つ授業だった。特に秋のコンサートは最初から最後まで自分たちで仕上げたものなのでとても良い思い出となった。
- ・この授業では秋のコンサートという企画があって連弾や2台ピアノを弾く機会を持つことができたので良かった。
- ・レポートは少し大変だったが、それ以上にやりがいがあり楽しい授業だった。
- ・クラスの仲もこの授業で深まったと思う。
- ・ただ演奏をするだけでなく、他者の演奏を聴くことや、楽曲について考察することはとても重要なことだと思う。
- ・ここで、学ぶことへの足がかりを沢山得られたことは、今後一生音楽を楽しみ、そして学びを続けていく上でとても意義深いものだった。
- ・ここで得たことを糧に、今後はしっかりと学び日々精進していきたい。

所見

1. 「人前で演奏することには慣れてきた」では、授業内や「秋のコンサート」で全員等しく演奏する機会を与えたにもかかわらず緊張感については個人差があり、あまり慣れることが出来なかったという意見があるものの、多数の学生が向上したと感じられたことは大きな成果であろう。
2. 「他者の演奏について感想や意見を持てるようになった」では、毎回の授業の仲で均

等に指名し意見発表を求めたので、学生は当初プレッシャーを感じていたようであるが、結果的にはほぼ全員に良い経験を与えることが出来たと考える。

3. 「作曲家や作品についての知識が深まった」では、すべての学生が非常に積極的に研究・発表に取り組んでいたため、全学生が広範な知識を得ることが出来たため好評価を得られたようである。
4. 「レポート執筆力が向上した」では、文章力に関しては最初から個人差が大きいいためレポート執筆による向上度も一様ではないが、ほぼ全員がある程度以上向上したと感じられたようである。
5. 「人前で発表する能力が向上した」では、最初は気後れしていた学生も、多くの仲間達の発表を聴くことにより自己の能力を高めるためのモチベーションと技術を身につけることが出来たようである。
6. 「コンサートの企画や準備・運営の面で自主的に行動出来るようになった」では、特に数人リーダーシップに優れた学生がおり、彼らの行動力に触発されることにより、全員が今まで以上に運営面での能力を発揮出来たようだ。

「自由記述」において、他者を知り級友との関わりを深める中で音楽的技術・知識を高められたことへの感謝の記述が多く寄せられたことは、この授業への高評価の証と思われる。

IV 総括

短期大学のピアノコースの学生の必修科目である「ピアノ演奏研究①・②」では、2年次 22名の学生が2年間、1年次 12名の学生が1年間毎週1コマの時間を共有しながらピアノ音楽についての研究を進めてきた。

初めて顔を合わせる級友達の前で「自分が音楽を志した理由」を発表する『音楽を語る』から始まり、各自の演奏と研究成果を披露する作曲家及び作品研究発表、グループによるバロックと近現代音楽の研究発表、連弾と2台ピアノによるアンサンブルへの取り組み、そしてその成果発表としての「秋のコンサート」への出演並びに全員一丸となって取り組むその企画運営等、この授業を通して学生は多様な学びを経験してきた。そしてその結果として身につけられるべき学習成果についてはシラバスに以下の通り記載してある。

- ① 多様な演奏に触れ、また連弾演奏を通してアンサンブル力を身につけながら、演奏における自己表現力を高められる。
- ② 「秋のコンサート」の企画・運営に学生が積極的に取り組むことを通じて、協調性とマネジメント力を育成出来る。
- ③ 『音楽を語る』というテーマでのレポート執筆と発表を行うことにより、文章力・プレゼンテーション力・コミュニケーション力を向上させながら、卒業後の社会活動に必要なスキルを身につけることが出来る。

以上の学習成果獲得を実現するための教育手段としての「少人数のゼミ形式による音楽教育」を研究テーマとして2年間にわたり取り組んできた訳であるが、授業最後に実施した学生アンケート結果からも当初の目標は十分に達成することが出来たと認識している。

ピアノ演奏を学ぶために同じ学び舎に入学してきた学生達が、それぞれの技術を向上させつつ週一回のクラス授業を共有しながら、共通目的に向かって行動を共にすることにより育まれた友情は、この授業を運用していく私たちにとって何ものにも勝る喜びである。私たちは今回の好結果に甘んじることなく今後も学生の状況やニーズを的確に把握しながら、授業の更なる改善に取り組んでいきたい。